旧あしべ屋妹背別荘

「和歌の浦」の魅力

和歌の浦の海岸には島々や丘陵が、広い干潟と細く伸びた砂嘴とともに見られ、自然の景観が繊細に重ね合わされている様子は古代から褒め称えられてきました。特に 724（神亀元）年、聖武天皇が行幸された折には改めてその価値が注目され、この時に山部赤人が詠んだ短歌「若の浦に　潮満ち来れば潟を無み　葦辺をさして　鶴鳴き渡る」によりこの地は、都に住まう上流階級の者たちの憧憬の場となりました。

詩に詠まれただけではなく、干潟に連なる島々の輪郭や松の風情ある姿などは昔より絵図に繰り返し描かれ、歴史の流れの中で、美しいこの自然の景色をどのようにあらわそうとしたのか、足跡を辿ることができます。

江戸時代に入ると、初代紀州藩主の徳川頼宣が大規模な整備をおこない、父・家康を祀る東照宮を造営、また妹背山には母のために多宝塔を建立しました。石造の三断橋や観海閣を建てたのも頼宣の功績です。

この地は、地域住民によって自主的に保護がなされてきた瞠目すべき長い経緯があり、多数の人々による願いが実を結び、2010（平成 22）年 8 月に和歌の浦は国の名勝に指定されました。

芦辺屋と朝日屋の消長

頼宣はまた、三断橋の陸地側のたもとに 2 軒の茶屋を並んで建てたようです。これが芦辺屋と朝日屋で、ともに最初は粗末な小屋でしたが、芦辺屋はその後、旅館を営むようになり、明治時代の初期には木造 2 階建てを構えました。他方、朝日屋は衰退し、芦辺屋に吸収されたようです。明治 20 年代の中頃までに芦辺屋本店は木造 3 階建てとなり、隣地には別館を増築し、興隆をきわめました。

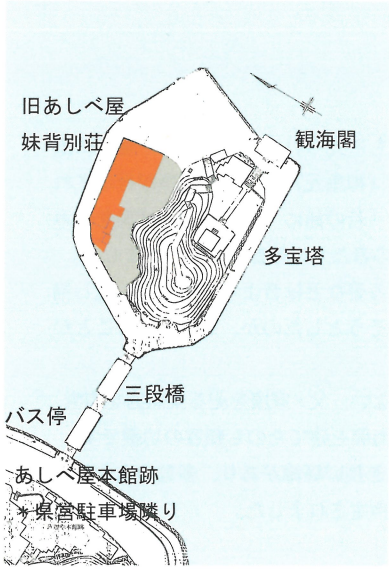
この時代、和歌祭は非常に活気があり、大勢の観光客を集めました。芦辺屋の主人・薮清一郎は、1893（明治 26）年に芦辺屋の広告冊子「紀伊和歌浦図」を刊行し、和歌祭に関して紙数を多く用いて丁寧に紹介しています。療養としての海水浴への勧誘と、海水を沸かした潮湯（汐湯）の医療も強調されました。

芦辺屋本店は明治時代の末期に、全面的に改築されたと考えられます。ですが時代は変転し、観光客は新和歌浦へと流れ始めていました。芦辺屋は 1925（大正 14）年に廃業し、後発の旅館であった望海楼に買い取られます。その後、望海楼も潰えました。

かつての記憶をとどめるために、「芦辺屋・朝日屋跡と鏡山」は 2008（平成 20）年 6 月に県の名勝・史跡に指定されています。

2013 年 9 月 21 日　作成：西本直子

写真：中島悠二



アクセス：
JR 和歌山駅、南海電鉄和歌山市駅より
タクシーで２５分
和歌山バス・「玉津島神社前」下車、
徒歩２分、
「和歌浦」下車、徒歩８分

あしべ屋妹背別荘

明治時代の芦辺屋には文化人が数多く訪れ、文字に残しました。南方熊楠と孫文がこの旅館で 1901（明治 34）年に再会し、旧交を温めたこと、また 1911（明治 44）年に夏目漱石が和歌山での講演会のために芦辺屋の別荘を予約していたことなどは良く知られています。

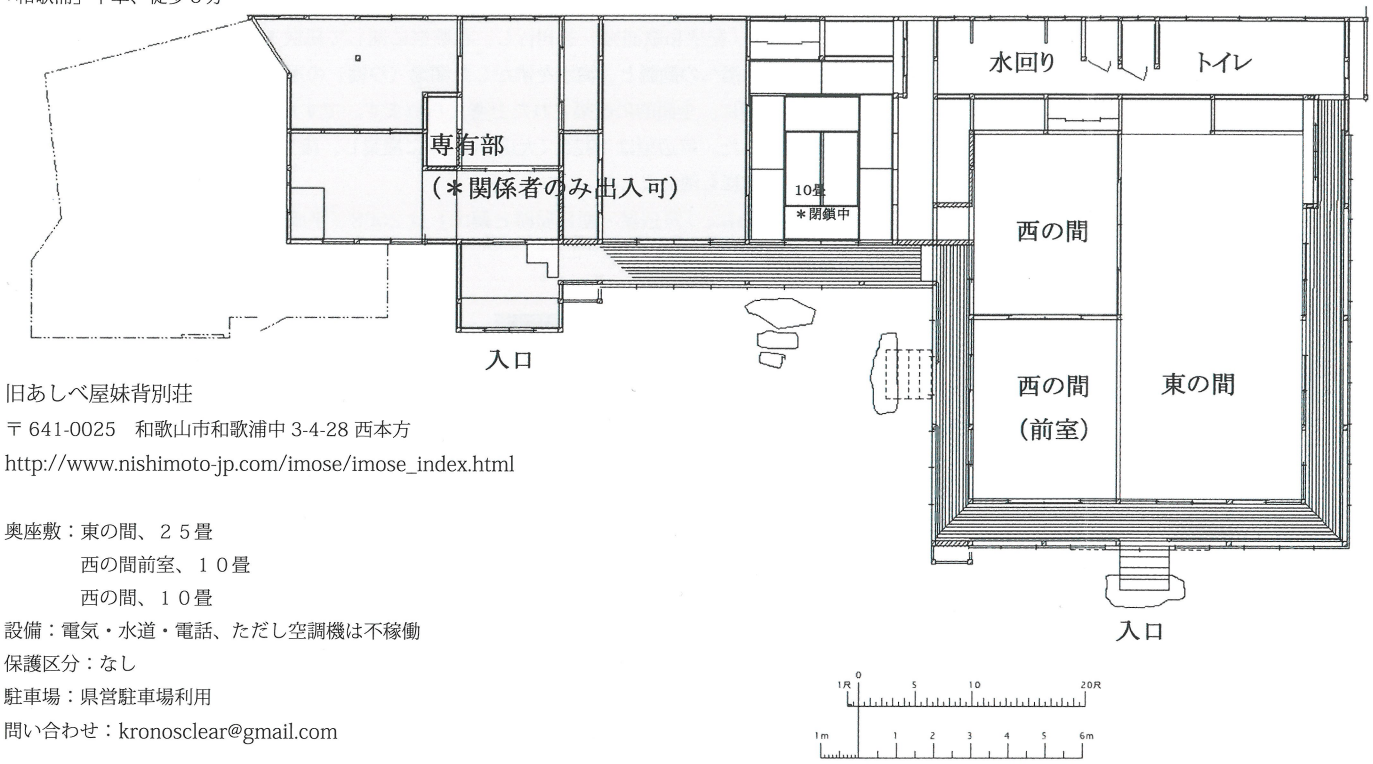
小泉信三は父とともに、この旅館に 1889（明治 22）年頃、長逗留しました。新島襄・八重夫妻も療養の目的で 1877（明治 10）年に和歌の浦を訪れていますが、当時、旅館としては芦辺屋以外に見当たらなかったはずです。田山花袋は、芦辺屋と思しき建物を夜に見た印象を 1899（明治 32）年に書き残しています。さらに、坪内逍遥が芦辺屋に泊まったらしい痕跡も疑われます。

芦辺屋には本店の他に別荘が複数設けられていましたので、誰がどこに泊まったのかという詳細を突き止めるのは困難ですが、けれどもこのうち、妹背山に設けられた別荘（妹背別荘）は別格であったらしい点はきわめて重要です。皇族も訪れ、これを祝して芦辺屋の主人・薮清一郎は記念碑を 1905（明治 38）年に立てました。

浜口弥「新和歌浦と和歌浦」（1919 [大正 8] 年）に掲載された芦辺屋の広告には、「妹背山麓弊館妹背別荘は幽遠閑雅にして畏くも明治三十六年十月九日今上天皇陛下の御幸臨あらせられしを始め奉り各皇族宮殿下御成の光栄を槍へるは皆此別荘に御座候」と記されており、おそらく最上の客の逗留のために用意された施設であったと思われます。ここにはビリヤード場が付設されていた時期もありました。

妹背別荘はその後、大正時代末期の芦辺屋の廃業とともに、地元で建設業を営んでいた西本健次郎へ譲渡され、しばらく別荘として用いられた後、坐禅道場として 30 年間以上貸し出されました。当該地域における 2010（平成 22）年の国名勝の指定などに伴い、現在では最も成果が期待される活用方法の模索が始められています。

芦辺屋の本店や、他の別館などが失われてしまった今、ほとんど唯一残された貴重な妹背別荘を後世に残し、伝えていくことが強く望まれています。



旧あしべ屋妹背別荘
〒 641-0025　和歌山市和歌浦中 3-4-28 西本方
http://www.nishimoto-jp.com/imose/imose_index.html

奥座敷：東の間、２５畳
　　西の間前室、１０畳
　　西の間、１０畳
設備：電気・水道・電話、ただし空調機は不稼働
保護区分：なし
駐車場：県営駐車場利用
問い合わせ：kronosclear@gmail.com

＜謝辞＞
文面作成に当たり、額田雅裕・藤本清二郎・米田頼司各先生からの貴重な御教示を参考とした。厚く御礼申し上げる。